

五〇三 「二説四界」<sup>にせつしかい\*朱筆</sup>機は動す、<sup>せい</sup>静を以つて實を置く、

五〇四 體は實す、<sup>きよ</sup>虚に由りて機を發す、

五〇五 虚にして其の色を物にす、

\*五〇六―〇七 實にして其の性を質にす、<sup>てんち</sup>天地は發収の偶を得る。<sup>え</sup>（發収は安永本からの復元）

五〇八 是に於て精中は通塞す、

五〇九―一〇 麤中は轉持す、<sup>もつ</sup>以て其の天地を體を没するに於て成す、<sup>おい</sup>

五一 實中は散結す、<sup>きよ</sup>虚中は發收す、<sup>もつ</sup>以て其の天地を物を露するに於て成す、<sup>おい</sup>

五二―一三

(PB 322)